



山田コンサルティンググループ株式会社

2011年3月期決算説明会

2011年5月11日(水)

山田コンサルティンググループ株式会社



1. 2011年3月期決算概要		3
●(1)山田コンサルティンググループ全体組織	_____	4
●(2)通期決算のポイント	_____	5
●(3)連結損益計算書概要	_____	6
●(4)セグメント別損益状況	_____	7
●(5-1)経営コンサルティング事業	_____	8
●(5-2)不動産コンサルティング事業	_____	9
●(5-3)資本・株式・株主に関するコンサルティング事業	_____	10
●(5-4)投資ファンド事業	_____	11
●(5-5)FP関連事業	_____	12
●(6)連結貸借対照表概要	_____	13
●(7)連結キャッシュ・フロー計算書概要	_____	14
2. 2012年3月期通期業績予想		15
●(1)2012年3月期 通期連結業績予想	_____	16
●(2-1)2012年3月期の事業戦略① 投資ファンド事業、FP関連事業	_____	17
●(2-2)2012年3月期の事業戦略② 経営コンサルティング事業	_____	18
●(2-3)2012年3月期の事業戦略③ 不動産コンサルティング事業 資本・株式・株主に関するコンサルティング事業	_____	19
●(3)リスク情報	_____	20
(ご参考)山田コンサルティンググループ概要		21
●(1)山田コンサルティンググループの歩み	_____	22
●(2)企業経営の理念	_____	23
●(3)特色・強み	_____	24
●(4-1～4)各企業の特色	_____	25
●(5)連結業績の推移	_____	29

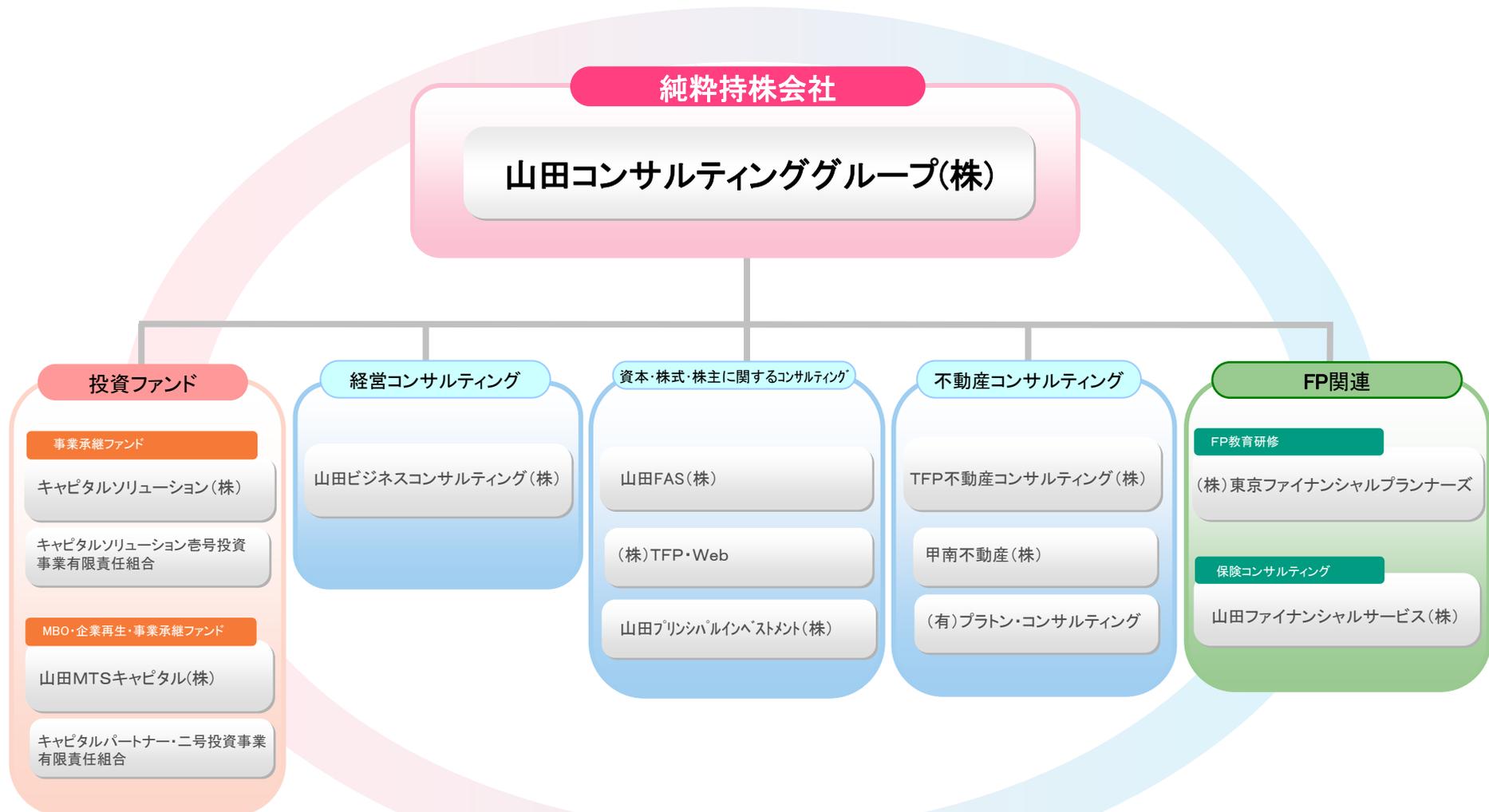


山田コンサルティンググループ株式会社

1. 2011年3月期決算概要



(1) 山田コンサルティンググループ全体組織





(2) 通期決算のポイント

総括

各コンサルティング事業の業績が順調に推移、投資ファンド事業で大きな投資損失発生せず
⇒大幅増益(営業利益、経常利益、税引前利益)

経営コンサルティング事業

引き続き企業再生コンサル案件の受注状況が堅調で増収増益

不動産コンサルティング事業

不動産仲介案件の受注、幅広いコンサル案件の地道な積上げにより増収増益

資本・株式・株主に関するコンサルティング事業

前期比減益も、案件受注が順調で当初計画通りの業績を確保

投資ファンド事業

大きな投資損失は発生せず、経常的なファンド運用コストの計上により営業赤字

FP関連事業

厳しい事業環境が継続し、減収減益

(3) 連結損益計算書概要



山田コンサルティンググループ株式会社

単位:百万円	2010年3月期 (売上高比 %)	2011年3月期 (売上高比 %)	増減		
			金額	増減率 (%)	
売上高	5,287 (100.0)	5,622 (100.0)	334	6.3	各コンサルティング事業の案件受注が順調で増収
売上原価	1,071 (20.3)	674 (12.0)	△397	△37.0	前期において、投資ファンド事業で415百万円の投資損失を計上
売上総利益	4,215 (79.7)	4,947 (88.0)	731	17.3	
販管費	3,624 (68.5)	3,807 (67.7)	183	5.0	
営業利益	591 (11.2)	1,140 (20.3)	548	92.8	【営業利益の前期比増益率に対し経常利益の増益率が減少した主な要因】 前期において、資本・株式・株主に関するコンサルティング事業で160百万円の投資有価証券売却益を営業外収益計上したため
経常利益	602 (11.4)	1,020 (18.1)	418	69.4	【経常利益の前期比増益率に対し税引前利益の増益率が減少した要因】 当期において、グループ全社の本社移転及び大阪事務所移転に伴うコスト(事務所移転費用及び固定資産除却損)等の特別損失を124百万円計上したため
税引前利益	628 (11.9)	896 (15.9)	267	42.6	
当期純利益	553 (10.5)	475 (8.5)	△77	△13.9	【税引前利益が前期比増益となったのに対し当期純利益が前期比減益となった主な要因】 前期は、過年度に計上していなかった繰延税金資産を追加で117百万円計上したのに対し、当期は同様の繰延税金資産の追加計上がほとんどなかったため

(4) セグメント別損益状況



山田コンサルティンググループ株式会社

【売上高】

(単位:百万円)

	2010年3月期	2011年3月期	前年同期比(%)
経営コンサルティング事業	3,655	3,900	106.7
不動産コンサルティング事業	560	608	108.6
資本・株式・株主に関するコンサルティング事業	561	641	114.3
投資ファンド事業	2	70	—
FP関連事業	663	568	85.7
消去又は全社	△154	△168	—
合計	5,287	5,622	106.3

【営業利益】

(単位:百万円)

	2010年3月期	2011年3月期	前年同期比(%)
経営コンサルティング事業	840	921	109.6
不動産コンサルティング事業	128	169	131.7
資本・株式・株主に関するコンサルティング事業	120	110	92.0
投資ファンド事業	△508	△56	—
FP関連事業	10	1	14.9
消去又は全社	△0	△7	—
合計	591	1,140	192.8

(5-1) 経営コンサルティング事業



山田コンサルティンググループ株式会社

(単位:百万円)

	2010年3月期	2011年3月期	前年同期比(%)
売上高	3,655	3,900	106.7
営業利益	840	921	109.6

- 引き続き企業再生コンサルティングニーズが高く、企業再生案件の受注が堅調
- 大型再生案件を複数受注
- メガバンク、地域金融機関との連携強化
- M&A事業本格稼働

(5-2) 不動産コンサルティング事業



山田コンサルティンググループ株式会社

(単位:百万円)

	2010年3月期	2011年3月期	前年同期比(%)
売上高	560	608	108.6
営業利益	128	169	131.7

- 大型不動産仲介案件の受注及び物納コンサル等のコンサル案件の地道な積上げにより、増収増益
- 会計事務所へのアプローチを引き続き強化

(5-3) 資本・株式・株主に関するコンサルティング事業



山田コンサルティンググループ株式会社

(単位:百万円)

	2010年3月期	2011年3月期	前年同期比(%)
売上高	561	641	114.3
営業利益	120	110	92.0

- 前年同期比減益も、M&Aのファイナンシャルアドバイザー業務、デューデリジエンス業務、バリュエーション業務等の受注状況が順調
⇒当初計画通りの業績を確保
- 大手金融機関との営業ネットワークの更なる強化・充実に注力
⇒安定的に案件受注

(5-4) 投資ファンド事業



山田コンサルティンググループ株式会社

(単位:百万円)

	2010年3月期	2011年3月期	前年同期比(%)
売上高	2	70	—
営業利益	△508	△56	—

- 大きな投資損失は発生せず、経常的なファンド運用コストの計上により営業赤字
- キャピタルパートナー・二号ファンドでは、残存投資先2社の企業価値向上支援活動に注力
- 事業承継ファンドのキャピタルソリューション番号ファンド(総額21.6億円)では、1件、184百万円投資実行、一方で投資先株式の一部を売却し若干のキャピタルゲインを実現
※平成23年3月末累計投資額 5件、679百万円(投資残高は629百万円)

(5-5) FP関連事業



山田コンサルティンググループ株式会社

(単位:百万円)

	2010年3月期	2011年3月期	前年同期比(%)
売上高	663	568	85.7
営業利益	10	1	14.9

- 厳しいFP教育研修事業環境が継続
- 法人マーケットで、主力商品であるAFP(2級FP技能士)資格取得講座の受講者数が大幅に減少、企業実務研修実施の見送り・先送りが顕在化

(6) 連結貸借対照表概要



山田コンサルティンググループ株式会社

単位:百万円		2010年 3月期末	2011年 3月期末	増減額
資産の部	流動資産	4,667	4,661	△5
	固定資産	2,342	2,251	△90
	有形固定資産	170	225	54
	無形固定資産	35	27	△7
	投資その他資産	2,136	1,999	△137
	繰延資産	6	5	△0
資産合計		7,016	6,919	△96
負債の部	流動負債	1,510	1,075	△435
	固定負債	535	472	△63
	負債合計	2,046	1,547	△498
純資産の部	資本金	1,599	1,599	—
	資本剰余金及び利益剰余金	3,208	3,596	388
	自己株式	△214	△226	△12
	株主資本合計	4,593	4,969	376
	その他有価証券評価差額金	△0	1	1
	新株予約権	17	19	1
	少数株主持分	358	380	21
負債純資産合計		7,016	6,919	△96

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書概要



山田コンサルティンググループ株式会社

単位:百万円	2010年 3月期	2011年 3月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	776	855	78
投資活動によるキャッシュ・フロー	47	△279	△327
財務活動によるキャッシュ・フロー	△96	△543	△447
現金及び現金同等物の増減額	728	32	△696
現金及び現金同等物の期首残高	2,241	2,969	728
現金及び現金同等物の期末残高	2,969	3,001	32



山田コンサルティンググループ株式会社

2. 2012年3月期通期業績予想



(1) 2012年3月期 通期連結業績予想

(百万円、%)

		通 期	
		当期:公表数値 前期:実績	前期比
売 上 高	2012年3月期	5,500	97.8
	2011年3月期	5,622	106.3
営 業 利 益	2012年3月期	1,000	87.7
	2011年3月期	1,140	192.8
経 常 利 益	2012年3月期	880	86.2
	2011年3月期	1,020	169.4
当 期 純 利 益	2012年3月期	480	100.8
	2011年3月期	475	86.0

- 経済環境が不安定な状況が続くことが想定される その不安定要素を考慮した業績予想
- 経営コンサルティング事業は、引き続き順調な業績を確保
- 不動産コンサルティング事業は、市況の変化に機敏に対応し業績貢献を目指す
- 資本・株式・株主に関するコンサルティング事業は、営業ネットワーク拡充による営業力強化により、前年度を上回る業績を目指す
- F P 関連事業は、厳しい事業環境下で先行き不透明 営業黒字を目指す
- 投資ファンド事業は、引き続き二号ファンド投資先2社の企業価値向上支援活動に注力

(2-1) 2012年3月期の事業戦略①



投資ファンド事業

<キャピタルパートナー・二号ファンド>

- 投資先(2社)の企業価値向上支援活動に注力

<事業承継ファンドのキャピタルソリューション壱号ファンド>

- 大手金融機関の協力のもと、事業承継問題を抱えている優良な中堅・中小企業をターゲットとして、慎重に投資案件を発掘

FP関連事業

- 法人マーケットにおけるFP資格取得講座斡旋先企業の深掘と新規斡旋企業の開拓
- 顧客ニーズを的確に捉えたオーダーメイド型の企業向け実務研修の提案
- 資源配分見直しによる利益体質化

(2-2) 2012年3月期の事業戦略②



山田コンサルティンググループ株式会社

経営コンサルティング事業

- 企業再生コンサルニーズへの対応を引き続き強化
- メガバンクに加え、地域金融機関、政府系金融機関、投資銀行、大手弁護士事務所、ファンドとの連携強化による確固たる営業基盤の構築
- 業務改善コンサルは、引き続き受注拡大を見込む
- 事業承継コンサル
⇒メガバンク・地方銀行の協力のもとに立ち上げた事業承継ファンドの運用、事業承継コンサルニーズへの対応強化
- M&A事業本格稼働
- 中国、アジア関連コンサル体制構築

(2-3) 2012年3月期の事業戦略③



不動産コンサルティング事業

- 不動産市況への対応
⇒市況の変化にあわせ、物納コンサル、不動産有効活用コンサル等幅広いコンサルビジネスを展開
- 住宅の販売仲介業務、賃貸管理業務により、安定した利益確保を目指す
- 引き続き会計事務所へのアプローチを強化し、営業拠点の拡充・拡大を着実に実現
⇒収益機会の獲得へ

資本・株式・株主に関するコンサルティング事業

- 大手金融機関との営業ネットワークの拡大・拡充
- M&A及び事業再編に伴うワンストップ型のFA業務、財務デューデリジェンス業務、バリュエーション業務を引き続き強力に推進
- 優良企業オーナーの事業承継・資産管理アドバイザリー業務もワンストップ型で積極的に推進



(3) リスク情報

経営コンサルティング事業

- 人材の確保及び育成
- 情報管理⇒機密情報が漏洩したときのリスク

不動産コンサルティング事業

- 人材の確保及び育成
- 不動産市況の動向

資本・株式・株主に関するコンサルティング事業

- 人材の確保及び育成
- 情報管理⇒機密情報が漏洩したときのリスク

投資ファンド事業

- 投資ファンド事業のリスク・・・企業再生途上の企業に投資
⇒投資先企業の業績状況、株式評価、売却タイミングによる大きな業績変動リスク

FP関連事業

- FP関連事業の商品構成・・・FP資格取得講座販売への依存度が高い
- 経済動向



山田コンサルティンググループ株式会社

(ご参考)山田コンサルティンググループ概要



(1) 山田コンサルティンググループの歩み

事業沿革		
1989年 7月	当社(旧株東京ファイナンシャルプランナーズ)設立	FP教育研修事業開始
1999年 7月	TFP不動産コンサルティング(株)を子会社化	不動産コンサルティング事業開始
2000年 1月	(株)TFP・Web設立	FP情報提供サービス事業開始
2000年 7月	山田ビジネスコンサルティング(株)本格稼働	企業再生・財務・経営コンサルティング事業開始
2000年 8月	キャピタルパートナー・一号ファンド組成	ファンド総額11億円
2000年 10月	当社ナスダックジャパン(現JASDAQ)上場	
2001年 10月	TFPビジネスソリューション(株)設立	上場支援コンサルティング事業開始
2002年 10月	当社(旧株東京ファイナンシャルプランナーズ)をTFPコンサルティンググループ(株)に商号変更し、純粋持株会社化	FP教育研修事業子会社(株)東京ファイナンシャルプランナーズ設立
2004年 4月	山田ファイナンシャルサービス(株)本格稼働	保険コンサルティング事業開始
2004年 12月	(株)オーナー企業総合研究所本格稼働	オーナー企業、オーナー向けコンサルティング事業開始
2005年 3月	山田MTSキャピタル(株)設立 キャピタルパートナー・二号ファンド組成	事業再生投資ファンド事業進出 ファンド総額: 100億円
2007年 4月	(株)TFPオーナー企業総合研究所設立 (現 山田FAS(株))	(株)TFP・Web、TFPビジネスソリューション(株)、(株)オーナー企業総合研究所の3社と経営統合・事業再編 資本・株式・株主に関するコンサルティング事業
2008年 1月	キャピタルソリューション(株)設立 キャピタルソリューション専号ファンド組成	事業承継投資ファンド設立 ファンド総額: 21.6億円
2010年 12月	当社を「山田コンサルティンググループ(株)」に商号変更	

(2) 企業経営の理念



山田コンサルティンググループ株式会社

1. 健全な価値観 私たちは、信頼される人間集団として、健全な価値観を共有します。

健全な心、健全な価値観、を持ち維持し続ける組織だけが世の中に存在する意義があると信じ、我々は「健全な価値観」を最も重要な基本理念として位置付け保持し続ける。

何が健全であり何が健全でないかの基準をシンプルに示すことは難しいが、それは広く社会全体に肯定されるものでなければならず、悪や、小手先の小賢しい行動、自己の利益を追うために他を利用する行動等を心から嫌う価値観であり、個々の良心から湧き出る価値観である。我々が「健全な価値観」を失い、自己や我々の組織の利だけを計る行動をとるならば、その組織は即座に解体すべきである。

2. 社会貢献 私たちは、高付加価値情報を創造・提供し、顧客と社会の発展に貢献します。

顧客の成長・発展は我々にとって大きな喜びである。我々は、常に顧客の立場に立って物を考え専門サービスを提供し、顧客の発展に尽くす。

故に、グループメンバーは定式的形式的な役務提供だけでは決して満足せず、高度の専門知識と強い責任感を持って顧客に対しアドバイスし、役務提供を行い、もって顧客の発展ひいては社会発展に貢献するものである。常に発展する又は前進する意欲を持った顧客(企業)は我々にとって大切な仲間である。

3. 個と組織の成長 私たちは、個と組織の成長と調和をめざし高い目標を掲げる個を尊重します。

個人の成長と組織の成長は相互に強く貢献し合う。故に、社会性、大人性の備わった高い目標を掲げ、その目標実現に向けて努力する個人とその個性を尊重し、その個人の成長をともに喜ぶ。また、仕事は重要なものではあるが、個々の人生にとっては最終目標ではないのであるから、我々の組織は常に個と組織の調和を実現目標とする。

個を尊重し、個の成長を実現する為には組織もともに成長しなければならない。故に我々は組織自体の成長も重要な目的と認識する。

(3) 特色・強み



強固な顧客基盤と充実したサービス内容

- メガバンク・地域金融機関を中心とした有力金融機関との強い結びつきによる数多くの顧客を保有
- 企業再生から成長・拡大・事業承継に至るまでの多様なサービスを提供

現場主義によるサービスを実践

- 現場に深く関わることによって、精度の高いサービスを提供
- 顧客からの信頼獲得により、良好な関係を継続

多彩な人材によるサービス提供

- 公認会計士・税理士といった会計人のみならず、様々な分野・現場で実戦経験のある人材によるサービスを提供
- 多様なコンサルティングニーズに対応するため、金融機関経験者、メーカー勤務経験者等の中途採用に加えて、様々な専門知識をもった多数の社員が在籍

(4-1) 各企業の特徴①



山田コンサルティンググループ株式会社

【コンサルティング事業】

山田ビジネスコンサルティング

- メガバンク・地域金融機関を中心とした金融機関に対する信用力
 - ▶ 中堅・中小企業に対するコンサルティング実績に基づく金融機関とのつながり
- 現場主義、独立系、中立系
 - ▶ 現場主義による実行力にこだわったコンサルティングサービスの提供
- 企業再生(B/S)コンサルから企業価値増大(P/L)コンサルへ
 - ▶ 財務コンサルティング(B/S)中心から、積極的に業務収益の改善を支援・実行する企業価値の向上を目的とする(P/L)コンサルティングへ

(4-2) 各企業の特徴②



山田コンサルティンググループ株式会社

TFP不動産コンサルティング

- 最良な不動産処分・購入・投資・活用などの提案から確実な不動産取引の実現をサポート
 - 資産分析
 - 不動産有効活用
 - 賃貸管理システム

山田FAS

- M&Aアドバイザー業務、資本政策実行のためのバリュエーションサービス、財務デューデリジェンス業務を提供
- 経営・財務等の状況を踏まえた総合的観点から、オーナー経営者のニーズに応じた相続・事業承継に関するコンサルティングサービスを提供
- 顧客先に常駐し、顧客の問題を共有することにより付加価値の高いコンサルティング (IPO、経理・決算開示サポート) を提供
- オーナー企業に対して、資本・財務に関するコンサルティングサービス (資本政策、M&A、バイアウト、組織再編等) を提供

(4-3) 各企業の特徴③



山田コンサルティンググループ株式会社

【投資ファンド事業】

山田MTSキャピタル

■ 中堅企業を投資対象とした『MBO・企業再生・事業継承』ファンド

■ ファンド組成実績

- ① 2000年8月 第1号ファンド・・・ファンド内容: バイアウトファンド、株式公開を出口
既に投資完了(6社投資、全て投資回収済)
投資規模11億円 投資期間7年 延長1年 2008年12月31日解散
- ② 2005年3月 第2号ファンド・・・ファンド内容: MBO、企業再生、事業継承を切り口、M&A株式公開を出口
8社投資(2011年3月末現在 投資先残数2社)
投資規模100億円、投資期間 8年

(4-4) 各企業の特徴④



【FP関連事業】

東京ファイナンシャルプランナーズ

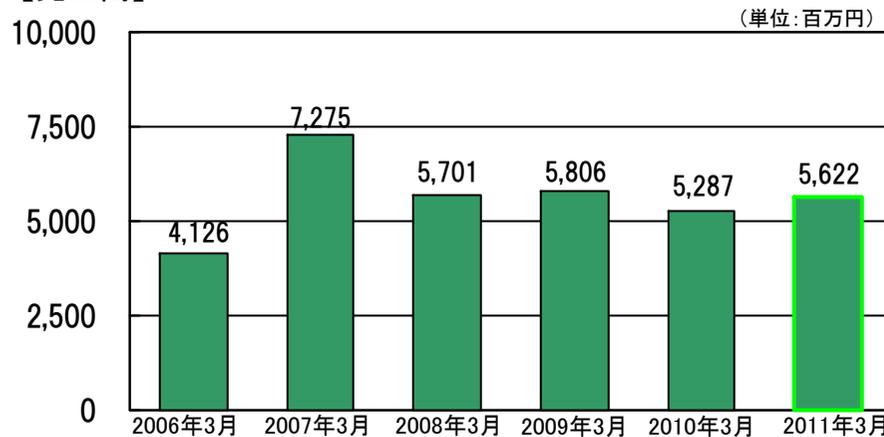
- ファイナンシャルプランナー(FP)教育研修の先駆者
 - 法人向けのファイナンシャルプランニング実務研修にも強み
 - 各企業の実務に沿ったオーダーメイド型のファイナンシャルプランニング実務研修を実施
 - グループカ、蓄積してきたノウハウ・ネットワーク
- FP教育研修事業 ●FPコンサルティング事業 ●出版事業 ●FP支援事業
- 会計人支援事業 ●確定拠出年金(DC)加入者教育・継続教育事業



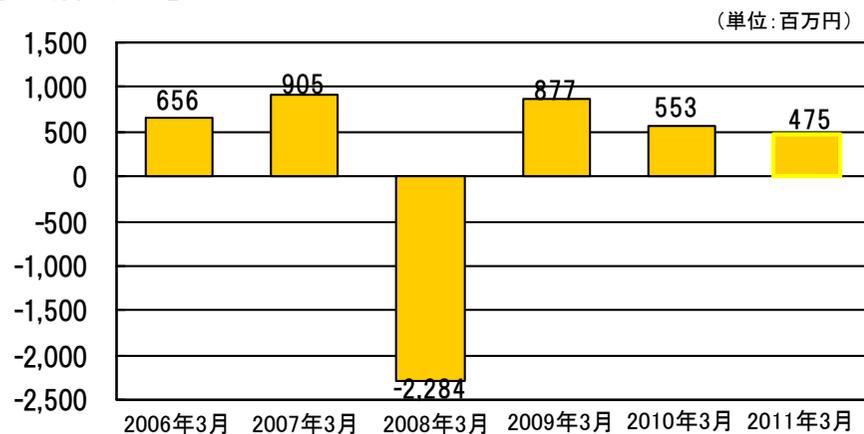
(5) 連結業績の推移

- ①2005年3月期まで:教育研修事業からスタート、コンサルティング事業を強化し、増収・増益基調で推移
→教育研修事業からコンサルティング事業を主体とする事業集団へ変貌
- ②2005年3月期以降:投資ファンド事業への本格進出(2005年3月期)により
山田MTSキャピタル設立(2005年3月)とキャピタルパートナー・二号ファンド(総額100億円)の組成
- ③2008年3月期、投資ファンド事業において多額の投資損失計上により大幅赤字決算
- ④2009年3月期、投資ファンド事業での損失処理の目途が立ち、黒字転換

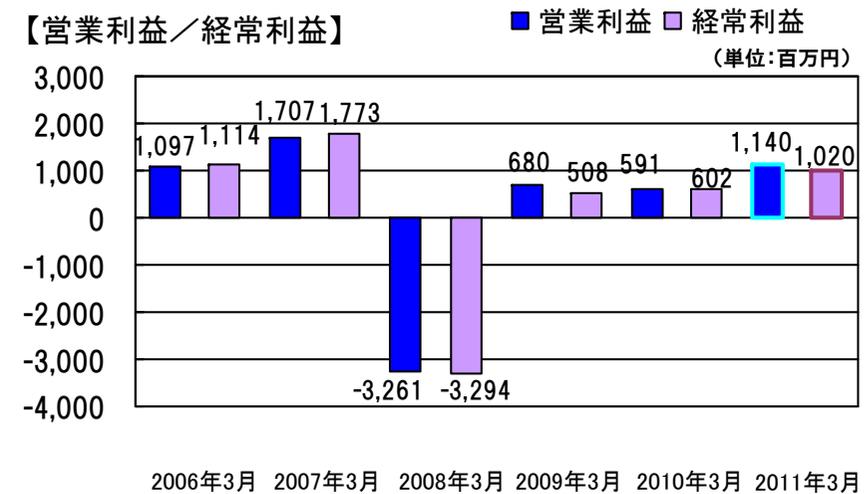
【売上高】



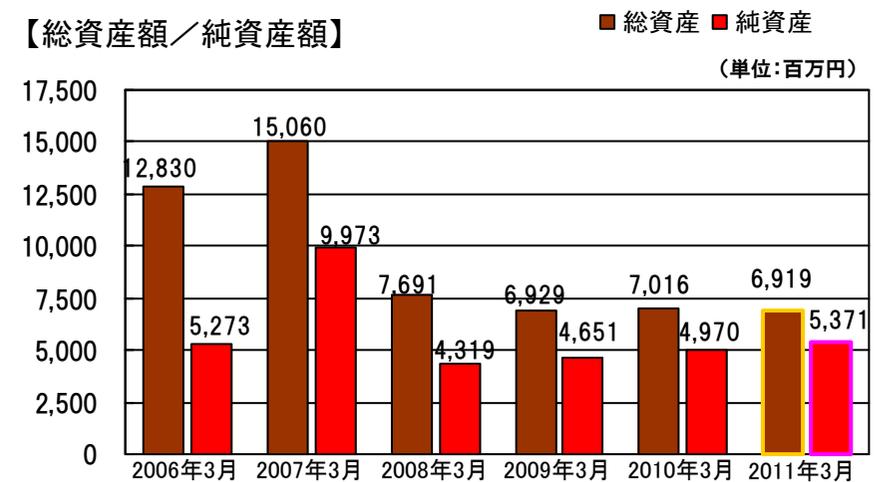
【当期純利益】



【営業利益／経常利益】



【総資産額／純資産額】





山田コンサルティンググループ株式会社

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知置き下さい。